

平成 24 年第 21 回

札幌市教育委員会会議録

※ 非公開に係る議案を除く

平成24年第21回教育委員会会議

1 日 時 平成24年11月14日（水） 13時15分～15時20分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

委員長	山 中	善 夫
委員	臼 井	博
委員	池 田	光 司
委員	阿 部	夕 子
委員	北 原	敬 文
教育次長	町 田	隆 敏
生涯学習部長	梅 津	康 弘
学校教育部長	金 山	正 彦
教育推進課長	井 口	誠 一
学事係長	村 田	行 信
学事係員	滝 田	真 吾
指導担当部長	池 上	修 次
指導担当課長	森 岡	毅
指導担当係長	相 沢	克 明
指導担当係長	長谷川	正 人
指導担当係長	出 葉	充
指導担当係長	喜多山	篤
指導担当係長	渋 谷	一 典
指導担当係長	和 泉	明 一
指導担当係長	岡 田	直 也
指導担当係長	秀 島	起 也
生徒の自殺に関する調査検討委員会		
委員長	福 井	雅 英
（指導担当課長）	檜 田	英 樹
総務課長	長谷川	雅 英
庶務係長	宮 地	宏 明
書 記	藤 間	雅 尚

4 傍聴者 21名

5 議 題

報告第1号 「平成23年度札幌市学習実現状況調査」及び「平成24年度
全国学力・学習状況調査」の実施報告書について

報告第2号 損害賠償請求事件に係る訴訟の終了について

協議第1号 生徒の自殺に関する調査検討委員会の経過報告について

【開 会】

○山中委員長 これより、平成24年第21回教育委員会会議を開会いたします。

会議録の署名は、臼井 博（うすい ひろし）委員と池田 光司（いけだ こうじ）委員をお願いいたします。

本日の会議につきましては、池田 官司（いけだ ひろし）委員から、所用によって会議を欠席する旨の連絡がありました。

本日の案件につきましては、報告第2号は、訴訟に関する事項、協議第1号は、公開することによって個人の権利を侵害するおそれのある事項でございますので、教育委員会会議規則第14条第1号及び第5号の規定によって公開しないこととしたいと思いますが、いかがでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○山中委員長 それでは、本日の報告第2号及び協議第1号につきましては、公開しないことといたします。

なお、本日、報道のカメラが入っておりますけれども、カメラの撮影につきましては、会議の円滑な進行のため、報告第1号の事務局の説明終了までとさせていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

【議 事】

◎報告第1号 「平成23年度札幌市学習実現状況調査」及び「平成24年度全国学力・学習状況調査」の実施報告書について

○山中委員長 それでは、報告第1号につきまして、事務局からご報告をお願いいたします。

○指導担当部長 指導担当部長の池上でございます。

報告第1号についてご説明いたします。

平成23年度札幌市学習実現状況調査及び平成24年度全国学力・学習状況調査につきましては、9月19日に結果の概要を報告させていただきましたが、このたび実施報告書がまとまりましたので、ご報告いたします。

本調査は、調査結果に基づき、質問紙調査の結果及び教科の領域・問題ごとの詳しい分析を行い、改善策等をまとめたものでございます。

それでは、まず最初に、平成23年度札幌市学習実現状況調査の実施報告書についてご報告いたします。

お手元の資料、平成23年度札幌市学習実現状況調査実施報告書をごらんいただきたいと思っております。こちらは、本市が独自に3年おきに実施しているものでございます。

1ページ、2ページは、既に報告しております調査の概要及び課題と改善の方向を示しております。その後、3ページ、4ページには、学校として改善を図るための観点をまとめております。そして、5ページ以降には、今回の対象教科である小学校社会、中学校社会、中学校外国語についての調査結果、詳しい結果分析と改善策、さらには、意識調査の結果などをまとめております。

それでは、5ページからの小学校社会科を例にご説明いたします。

5ページ、6ページは既にご報告しております調査結果の概要でございますので、本日は割愛いたします。

7ページから10ページが調査問題の設問ごとの分析となります。設問ごとに、設定通過率との差と、調査の結果を踏まえた授業改善の方策を示しております。

9ページをごらんください。

今回、設定通過率を有意に下回った問6、「日本の工業地帯・地域」については、課題の見られた基本的な知識、理解について確実に定着できるよう、今後の授業において、振り返りの指導を充実させ、定着を図ることなどを改善策として示しております。

続いて、11ページをごらんください。社会の学習に関する意識調査の結果を掲載しております。

意識調査においては、例えば、「ニュースや新聞に出てくる出来事に興味を

もっている」という質問で、肯定的な回答をした児童の割合が80.2%で、前回調査より増えています。しかし、この質問では、成績上位層と下位層との差が最も大きかったことから、授業で様々なニュースについて取り上げるなどして、社会の出来事についての興味、関心を引き出す指導を充実させるよう改善策として示しております。

以下、中学校社会、中学校英語とも同様の構成になっておりますので、いくつかの設問を例に説明させていただきます。

まず、中学校社会科ですが、15ページをごらんください。

問4の「中世の日本に関する設問」では、「室町時代の文化」において、他の問題と比べて通過率が低く、無回答率も比較的高い結果となったことから、基本的な知識事項について確実に定着できるよう、振り返りの指導を充実させることを改善策として示しております。

続いて、17ページをごらんください。

中学校社会の意識調査の結果について、小学校と同様に記載し、改善策を示させていただきました。内容については、時間の関係で省略させていただきます。

次に、中学校英語についてです。23ページをごらんください。

「英語での表現に関する設問」について、無回答率が高い結果となったことから、生徒にとって興味のあるトピックを選定し、書く意欲を喚起したり、書くためのヒントを与えたりするなど、指導方法の改善策をここでは示しております。

24ページには、先ほどと同様に、英語の意識調査の結果について記載しております。改善策もあわせて示してございます。

ここまでが平成23年度の札幌市学習実現状況調査の報告となります。

続きまして、全国学力・学習状況調査の関係ですが、平成24年度全国学力・学習状況調査実施報告書をごらんいただければと思います。

この実施報告書には、最初に、第Ⅰ章、第Ⅱ章として9月にご報告いたしました結果の概要等を掲載しております。それ以降に、第Ⅲ章として、対象となった教科ごとに、設問別調査結果、設問別分析と教科の学習に関する意識調査結果の分析、最後に、第Ⅳ章として児童生徒質問紙調査結果を載せています。

この1ページから7ページの調査の概要部分は、既にご報告しておりますので、本日は、中表紙、Ⅲ 教科別の課題と分析、それとⅣ 児童生徒質問紙調査結果についてご説明します。

それでは、教科別の課題と分析などについて、小学校国語を例にご説明いたします。小学校国語のページをごらんいただければと思います。

1ページから4ページは、主として知識に関する問題（A問題）の設問別の

調査結果と、設問ごとの分析となっております。

1 ページの設問ごとの調査結果の札幌市の正答率は、数値ではあらわしておりませんが、全国の正答率との比較において、状況がわかるように表の中に5段階の記号で示しております。

2 ページからの設問分析のページでは、黒枠で囲んだ太いゴシック体で、調査の結果を踏まえた今後の授業改善の方策を示しております。

その2 ページの設問1、「漢字の読み書き」をごらんください。

この問題は、前の学年までに配当されている漢字を正しく読んだり書いたりすることができるかどうかをみる問題であり、札幌市では、書くことに課題が見られます。そのため、学習した漢字をただ繰り返して練習するだけではなく、文の意味を理解した上で漢字の持つ意味を考えたり、辞典を日常的に利用するなどして、日常生活において漢字を正しく使う指導の充実を図ることを改善策として示しております。

5 ページから7 ページをごらんいただければと思いますが、主として活用に関する問題（B問題）の設問別の調査結果と、設問ごとの分析を載せております。

5 ページの設問1、「依頼の手紙を書く」問題をごらんください。

この問題は、目的や意図に応じて書く事柄を整理して、適切に敬語を使いながら手紙の文を構成することができるかどうかを見る問題です。札幌市では、手紙の後づけに必要な、日付、署名、あて名などの位置を適切に選ぶことに課題が見られました。

それに対応するため、国語科だけでなく、各教科等の学習において、依頼状や案内状、礼状など、さまざまな手紙を書く活動を設定するなどの指導の充実を図ることを改善策として示しております。

8 ページをごらんください。

国語学習に関する意識調査の結果を示しております。特に、「国語の勉強は好きですか」「読書は好きですか」という質問では、肯定的な回答が全国平均と比べ高くなっており、引き続き、意欲をはぐくむ指導を充実していくことを求めています。

他の教科につきましても同様の構成となっておりますので、札幌市として課題ととらえている部分、課題が見られた部分の中から、一部を取り上げてその他の教科についてもご説明いたします。

まず、小学校算数についてでございますが、小学校算数の部分の4 ページの設問8、「百分率」の問題をごらんください。

この問題は、百分率（割合）の意味についての理解を見るものであり、問題場面から、基準となる量と比較する量を的確にとらえることに課題が見られて

いることから、問題場面を図にあらわす活動や図を読む活動を取り入れ、数量の関係を正しくとらえ、割合の意味を確実に理解できるようにする指導の充実を図ることを改善策として示しております。

小学校算数9ページをごらんください。

先ほどの小学校国語と同様に、意識調査の結果を示しております。

意識調査では、「算数の学習は好きですか」という質問では、「当てはまる」「当てはまらない」両方の回答が全国平均を上回っている状況でございます。好きな子は多いが、逆に、そうでない子も多いととらえられます。考えることの楽しさや価値を伝える指導を充実させ、算数に対して意欲を持たない子どもを算数好きにしていくことを改善策として示しております。

次は、小学校理解の4ページをごらんいただければと思います。

4ページの設問4、「地球に関する問題」をごらんください。

この問題は、天気の様子と気温の変化とを関係づけて、グラフなどのデータから分析できるかどうかを見るものであり、札幌市として課題が見られている部分であることから、天気の変化について、興味・関心を持たせ、観測したデータと、自ら収集したグラフや雲の画像などのデータをもとに、多面的に考察する指導の充実を改善策として示しております。

小学校理科の6ページをごらんください。

意識調査では、「理科の勉強は好きですか」などの興味・関心に関する質問へは、肯定的な回答が全国より高くなっております。しかし、理科を活用することなどの質問への肯定的な回答は全国を下回っている状況であるため、理科で学習した性質や働き、規則性が、実際の自然の中で成り立っていることや、生活の中で役立てられていることを理解する指導をさらに充実させるよう示しております。

次に、中学校国語についてでございます。

中学校国語の3ページをごらんください。

ここにあります設問3、「文学的な文章を読む」問題は、比喩を手がかりにしながら文脈をたどり、内容を理解することや、表現の仕方を理解することを見るものであり、全国平均を上回っている設問もありますが、正答率自体は高くない状況にあります。

指導に当たって、文学的な文章を読む際には、比喩などの表現の技法に着目して、場面の情景や登場人物の心情などをとらえるようにする指導の充実を改善策として示しております。

中学校国語10ページには、意識調査の結果が載っております。

意識調査においては、学習への意欲について、全国の平均と比較すると高いと判断できる回答が多い状況と言えますが、実際の回答率では、肯定的でない

回答も多く見られます。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫するよう改善策を示しているところがございます。

続きまして、中学校数学です。

中学校数学の3ページをごらんください。

設問2、「文字式の計算とその利用」の問題は、文字式の計算ができるかどうか、数量の大小関係を不等式にあらわすことができるかどうか見るものであり、全国平均を上回っている設問もありますが、平均正答率そのものが低い状況にあります。

それに対応するため、式の意味を読み取り、その意味に基づいて式の値を求めることができるようにする指導や、数量の大小関係を事象と関連づけて式の意味を理解したりする指導の充実を改善策として示しております。

13ページには意識調査の結果を載せております。

数学の意識調査においては、国語同様に、学習への意欲について、全国と比較すると高いと判断できる回答が多い状況と言えますが、実際の回答率では肯定的でない回答も多く見られます。今後とも、生徒の興味・関心を引き出し、意欲を高める指導を工夫するよう求めていきます。

教科の最後になりますが、中学校の理科についてでございます。

中学校理科5ページをごらんください。

設問4の「科学的領域」の問題は、水溶液の濃度などを活用し、新しい卵と古い卵を区別する実験を通して、自然に対する総合的なものの見方ができるかどうかを見るものであり、教師が実験の要因や条件をすべて与えてしまうのではなく、段階を経て、生徒に計画させ、自ら課題を見出し、目的意識を持って観察実験を行うような指導の充実を改善策として示しております。

7ページに意識調査の結果が載っておりますが、中学校理科の意識調査においては、先ほどの国語、数学同様に、学習への意欲について、全国と比較すると高いと判断できる回答が多いと言えますが、「普段の生活に活用できないか考えるか」「将来役に立つか」「理科に関係する職業につきたいか」という理科の学習を生かすことに関する質問の肯定的な回答の割合は決して高いとは言えない状況にあります。理科が日常生活や社会をより豊かなものに発展させていることを実感させるような指導が求められます。

続きまして、質問紙調査結果についてご説明いたします。

1ページから3ページまでごらんいただければと思います。

1ページから3ページでは、全国と比較して、肯定的な回答の多いものと、肯定的な回答の少ないものを取り上げております。特に、小学校、中学校ともに、「家で学校の予習、復習をしている」と回答した子どもが全国を上回っており、「感想文や説明文を書くのは難しいと思っている」子どもが全国より少

ないという結果が見られております。

小学校では、「授業において話し合う活動をよく行っている」と感じている回答が多い反面、中学校では、少ないという特徴が見られます。

質問紙調査結果の5ページからは、質問事項を「学習時間」「学校生活」「家庭でのコミュニケーション」「自尊意識・規範意識等」に分類し、平成19年度からの調査結果と一緒に示し、分析しております。

例えば、14ページをごらんいただきたいと思います。

14ページにあります、「自分には、よいところがあると思いますか」というところ、16ページには、「人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか」という「自尊意識・規範意識等」の質問において、小学校、中学校ともに、肯定的な回答が増えてきておりまして、これまでの調査に比べ、変化の大きい質問項目となっています。

以上、概要ではございますが、実施報告書の構成と特徴的な内容についてご説明いたしました。

今後、これらの報告書に示しました改善策に基づき、研究開発事業における授業改善の取り組みや、札幌市における共同研究を初め、各種研究会・研修会における指導主事の指導・助言などを通して、札幌市の子どもたちの学習状況を踏まえた学ぶ力の育成のための授業づくり、習慣づくり、環境づくりに努めてまいります。

以上で、2つの調査の実施報告書についてのご説明を終わります。

○山中委員長 ありがとうございます。

それでは、審議に入るのですが、報道カメラの撮影はここまでとさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

[報道カメラは退室]

○山中委員長 それでは、ただいまの報告1号につきましてそれでは、ご質問、ご意見などがございましたらお願いいたします。

冒頭、私の方から質問いたしますが、過去の調査と比べて、先ほど、質問紙の自尊意識の関係で、自分にいいところがあるのではないかとこのところが増えてきている、そういうようなお話がありましたけれども、一般的に、他の科目なども踏まえて、どういうところがどう変わってきたかというような説明が欲しいなという気がするのですけれども、いかがでしょうか。

○森岡指導担当課長 過去の問題と問題自体が異なるので、単純な比較はでき

ないかと思いますが、全国との平均で比べていくと、おおむね、全般的に向上している方向にあるというふうに言えるかと思います。

○山中委員長 今のところを皮切りに、どうぞ皆さんから何かご質問、ご意見をお願いしたいと思います。

○臼井委員 学力のことでなくて、児童生徒の質問紙調査のことでよろしいですか。

○山中委員長 どうぞ。

○臼井委員 児童生徒の質問紙調査の結果の1ページ目のところですが、全国と比較して肯定的回答の少ないものとして、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」というのが、ここの小学校で言うとマイナス13%で、中学校でもマイナス11.7%ですが、私の記憶では、前回も大幅に少なかった。というのは、やはり、北海道、札幌もそうなのですが、歴史が少ないので、伝統的な地域行事に参加することが少ないと。これは、ある意味で歴史性のことで、いたし方ない面もあるかと思うのです。改めて、地域理解ということも、教科のほかの中でも大事だなと思って読んだのですが、質問は、その下の43番です。「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くのは難しいと思いますか」というところです。ここで、肯定的な回答として、札幌市が62.0、全国が67.7というのは、難しいと思うのが札幌の方が少ないという意味ですか。

○森岡指導担当課長 そのとおりです。

○臼井委員 ということは、これは、むしろプラスにとってもいいということですね。

○森岡指導担当課長 はい。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

○池田（光）委員 意識調査の中で、初歩的な質問になるのですが、教育委員会としての期待度とか、そういった幅みtainな持った方がいいのか、持っていらっしゃるのか、そうでないのか、まず、そこから聞きたいのです。

例えば、各意識調査に当てはまる、当てはまらないということとか、これは予想外だなとか、その予想外というのは何を基準にしているのかとか、これは随分当たっているとか、そういう事前の自分たちが思っている意識度とか、その辺は何か基準みたいなものがあるのでしょうか。

○森岡指導担当課長 本来であれば、そういうふうな期待値が欲しいところですけれども、実情としては、今回のこの調査については、全国との比較においてどうかということで、現在も分析を行っているところです。例年、同じ設問が続いているものもありますし、その回によって設問が変わっていくこともあるので、その部分の数値を札幌市としてある程度設定してということは、現在のところは難しいと考えております。

○山中委員長 ただ、教育委員会としての目標、あるいは、各学校としての目標との関係で、こういう質問にはこのくらいのパーセンテージが出てほしいなというようなものは、それなりに考えられるのではないかという気がするのですが、そういったことは、これまで意識して検討、分析はしてこなかったのですか。

○森岡指導担当課長 例えば、ここにはありませんけれども、学校に行くのが楽しいですかとか、そういうものについては、一応、成果目標という形で上げさせていただいておりますので、できるだけ、その目標に近づくようにということ考えてきております。

ただ、他の部分については、現在、そこまでは考えておりませんでしたので、今後、検討していきたいと考えております。

○山中委員長 池田委員、いかがでしょうか。

○池田（光）委員 特に、「雪」「環境」「読書」の「読書」ということに対して、私自身も「読書」という項目に対しては思い入れがあるのですけれども、それに対して、日常の中で、特に努力をしてきた部分ですね。もちろん、ほかもしていますが、努力した部分の中で、もう一息といいますか、もっと工夫ができるのではないかとということが散見できるものですから、それらのことも含めて、せっかく札幌市では、「雪」「環境」「読書」という中での「読書」が、前の調査でもありましたけれども、自分から思うと期待外れで、では、期待外れの範囲はどのぐらいかということも自問自答しているところなものですから、その辺のところをもう少し明確にしていって、ある程度、そこに近づいていっ

てもらおうようなところから始めていく対策も必要ではないかと思うのです。

○指導担当部長 今、池田委員がおっしゃったことを受けてですが、もちろん、目標値をしっかりとらえた方がいいものを今後しっかりと検討したいと思いますが、その前提として、先の札幌市らしい特徴のある学校教育の3つのテーマではないですが、それを充実するために、教育委員会として、あるいは、それを具体化して学校でどういうことをやったかということの結果として検証して、その目標が達成できたかどうか、そういう観点で今後工夫していきたいと考えていたところではあります。

○阿部委員 質問のところで、「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問と、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」という質問のページがあったと思うのですが、これは、多分、下の枠組みに書いているように、規則正しい生活をしているかどうかという調査になっていると思うのですが、仮に、夜遅い時間に、毎日12時に就寝していても、毎日12時に寝ているとすればそれは規則正しいかどうかということを考えると、少々正しい調査ではないような気が少ししています。中学生、小学生となると、学校から帰ってくる時間帯とか、生活のリズムがかなり変わってくると思うのですが、調査の仕方として、方向性として、規則正しい生活はかなり必要なウエイトは占めているとは思いますが、その時刻が平均的にどのくらいなのかというもうちょっと深掘りをする調査をされた方がいいと思います。

よく、娘の参観日に行くと、クラスの中でもあくびをしている子どもが最近増えてきているのが個人的には気になる部分であります。やはり、いろいろなお話を聞いていると、夜に、深夜番組とか遅い時間までテレビを見ている子どもが最近増えてきている傾向があるように思うので、その辺の調査の仕方についてご意見をお伺いできればと思います。

○森岡指導担当課長 これは、国の調査なものですから、設問項目自体は国で決定しているので、我々からお話することはできないのですが、札幌市において、3年ごとに子どもの学習状況、あるいは生活状況調査を、抽出ですけれども、調査する事業がありますので、その中に、今、委員のお話の中で出ていたことなどを項目として検討していきたいというふうに思います。委員がおっしゃるように、遅くということも十分考えられますので。

○臼井委員 今の件ですけれども、先日、ベネッセの調査を読む機会がありました。これは、小学生、中学生、高校生を対象とした結構大規模な調査ですが、

文科省が2006年に、「早寝早起き朝ごはん」というような国民的な運動をやったということで、2004年の調査と2009年の調査と比較しているのです。そうすると、小・中・高ともに、早寝、早起き傾向になっているのです。僕も、正直なところ、このごろの子どもは遅いなという印象を持っていたのですが、ベネッセの調査をすると、若干、早起き、早寝の傾向になっているところですよ。

確かに、具体的な時間調査というものは、もっときめ細かな、札幌市なら札幌市のレベルでやる必要があると思っています。ちなみに、僕も自分で調べているのですが、そうすると、小学生は6時台に起きる子が圧倒的に多いですね。中学生になると、ちょっと起きる時間が遅くなるというところがむしろあるのですが、逆に、寝る時間は、学年が上がるに従ってだんだんなっていくと。ただ、全国的に見ると、むしろ健全化傾向に行っているということなので、僕は意外に思っていました。

○山中委員長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

大変盛りたくさんの内容なので、後でまた思いつくこともあろうかと思えます。もし、今、思いつかないのであれば、また別な機会にでも声を出していただくということでも構わないと思っております。

○池田（光）委員 いろいろな調査項目の意識調査の中で、これは次回の学校の授業に活かしていかなければならないということが前回のときにいくつかあったと思うのですが、それについて、こうしてみた、あるいは、それに対してどうだったかというところまでのさかのぼりみたいな調査はされているのでしょうか。

○森岡指導担当課長 例えば、先ほどの話に出ていた読書ですが、児童生徒質問紙調査結果の7ページの「家や図書館で、普段、1日にどれぐらいの時間、読書しますか」というところです。小学校6学年はさほど大きな変化は見られないかと思いますが、中学校3年生では、前回に比べてもかなり増えてきております。この結果を見ても、札幌市で取り組んでいる「雪」「環境」「読書」の取り組みがかなり浸透してきているのではないかと、あるいは、子どもに読書に親しむ気持ちが生まれてきているのではないかと考えております。

それから、先ほどのご指摘にありました「地域の行事に参加していますか」というところでは、臼井委員からご指摘があったように、毎年、全国平均を下回っておりまして、地域的特性はあるにしても、地域との連携を今後とも進めていかなければならないということで、さまざまな施策を現在もやっております。

すけれども、今後とも、引き続き充実していこうと考えているところです。その結果として、数値を今後見ていきたいと考えております。

○山中委員長 今の後段の話は、別に歴史的な行事でなくても、新しく、この地域でこんなことをやろうよということがあれば、それが教育上プラスであるということであれば、その中でどんどんつながっていくという働きかけも。

○指導担当部長 今、お話のあった部分につきましては、先ほどもちょっと例として挙げましたが、札幌らしい特色ある学校教育の中で、例えば、「雪」とか「環境」をテーマにして、まちや、まちに住む人たちとしっかりかかわりながら、ある意味でまちづくりにも参画しながら、子どもたちが体験的な活動を通して生きる力を身につけていくということ、大きな子どもを育成するための視点として持っておりますので、そのようなこともしっかり位置づけながら、ここの数値は見ていければなと思っております。

○山中委員長 先ほど、池田委員が言われた過去との比較の関係は、前回の会議か、会議外の協議の場であったか、そういうところでも出ていたかと思うのです。そして、これまで数年かかって行われた全国学生、あるいは札幌市の傾向をきちっと分析して、それに対してどう対応してきたのか、それでどう改善してきたのか、そういったところをきちっと把握することが、1年ごとの結果分析だけに対応するだけではなくて、そういう蓄積が大事だと思うのです。

ただ、前回の話か何かで、問題が違うところがあって、なかなか難しい問題もあるというような話もあったかのように記憶しているのですけれども、そういうところを乗り越えながら、経験を積みかねて、それに対する改善、どこについてどういう対策をしてこうなったということ、きちんとして踏まえて、少しずつでも改善していくようなことにご努力願いたいと思います。

○指導担当部長 はい。

○山中委員長 ほかに何かございましょうか。

○池田（光）委員 今のところで、プラス、今委員長もおっしゃったと思うのですけれども、確認の意味で、よかったところは、逆に何でよかったのか、これだけ、14.3%、この読書でも読む時間が増えた、では、本当に何でよかったのかというところも改めて浮き彫りにして行って、それは活かしていくというようなこともぜひお願いできればというふうに思います。

○指導担当部長 検証の部分をもう少ししっかりやっていきたいなと思います。

○山中委員長 それから、この結果は、どういうところに公表、公開されるのでしょうか。

○森岡指導担当課長 結果については、各学校に通知するとともに、ホームページ上で公表することになっております。

○山中委員長 学校の場合は、校長をはじめ、各先生方が読まれて、きちっととらえて、自分の学校と比較してどう対応するかということをやっているのでしょうけれども、一般の市民の方々にとってみれば、これが、そのまま出たとしても、大変理解しにくいです。むしろ、冒頭に、こういう傾向ですというものに対して、市の教育委員会としては、こういうことを考えていますとか、こういうことをやっていきますとか、そういう概要版的なものを出していただいた方がいいのではないかと思うのです。どうでしょうか。

○指導担当部長 検討させていただきたいなと思います。

○山中委員長 何かほかに要望などございますか。

○池田（光）委員 要望としては、整理したものでいいのですけれども、グラフ化した方がいいかどうかわかりませんが、もうちょっとグラフ化した方が、数字を読み込むよりも分析しやすいのではないかなという気がします。

○山中委員長 過去の傾向なんかを見るには、グラフ化していただいた方が、全部必要ないかもしれないけれども、わかりやすくするためにはいいかと思えます。

○指導担当部長 お時間をいただくことになると思いますが、そういう方向でいろいろ取り組んでみたいと思います。

○山中委員長 ほかにいかがでしょうか。

ないでしょうか。さらにまた気がついたことがあったら、ぜひ別の機会にでもおっしゃっていただければと思います。お願いしたいと思います。

それでは、これからは、報告第2号と協議第1号になりますけれども、公開

しない議案になりますので、傍聴の方はご退席をお願いいたします。

以下 非公開